

平成 27 年度第 2 回診断評価等基準委員会議事録

開催日時：平成 27 年 11 月 15 日（日）7:00 - 8:00 AM

開催場所：JP タワーホール&カンファレンス

出席者：紺野 慎一（担当理事）、川上 守（委員長）、金森 昌彦、寒竹 司、
竹内 大作、橋爪 洋、福井 充

欠席者：笠井 裕一、細野 昇

報告事項

1. JOABPEQ,JOACMEQ 使用に関して（川上委員長より報告）

非会員から「日本整形外科学会へ「患者立脚型評価質問票使用申込書」
で問い合わせがあった。

- JOABPEQ 東京さくら病院 理学療法士 地口麻衣

- JOACMEQ St. Vincent's Hospital, Melbourne, Yi Yuen Wang

- JOABPEQ 兵庫県立大学大学院看護学研究科 博士課程 槻木直子
了承 2015.8.4

- JOABPEQ 千葉県立保健医療大学助教 太田 恵
了承 2015.8.25

- JOA & mJOA score Validation study, Julio Furlan, University of
Toronto : 返信 2015.9.18

- JOABPEQ Puneeth K, Madras Medical College Chennai India
使用法に関するもの：返信 2015.10.27

- JOACMEQ 秋田大学整形外科 石川慶紀
計算式、横並びのもの：返信 2015.10.28

2. JOABPEQ/JOACMEQ の国際ジャーナルでの掲載状況について

前回の本委員会で既に報告(平成 28 年 7 月 5 日 PubMed からの Review 資料)したところであるが、複数の論文で BPEQ/CMEQ 使用法の誤りが見られる。脊椎脊髄病関連の major journal である Journal of Neurosurgery にも使用法を誤った論文が掲載されている。その影響は看過出来ない(川上委員長より報告)。

対策として次のような意見が出された。

Chief in Editor に手紙を送ることを検討(川上委員長)

評価法の適正使用と論文査読時のチェックについて、JOA 理事会に対する働きかけも必要(紺野担当理事)

3. JOABPEQ, JOACMEQ のアプリが公開されたことについて。

内容について当委員会での検証が行われていない段階で公開されたものなので、検証作業が必要との意見で一致した。

議題

1. プロジェクト研究進行状況について

「腰椎変性すべり症に対する手術治療法の有用性に対する JOABPEQ を用いた多施設前向き研究」(担当：寒竹委員)

1年までの途中経過では除圧+固定群と除圧のみ群の2群間で有意差なしの結果であり、抄録を JSSR2016 に提出した。

引き続き2年までのフォローアップデータ収集を続けることが確認された。

「腰椎変性側弯症の健康関連 QOL 低下に及ぼす X 線学的 (脊柱変形) パラメータを検討する多施設横断研究」(担当：竹内委員)

登録された 145 例をクラスター解析により 3 群 (概ね軽症群、中間群、重症群と考えられる) に分け、健康関連 QOL との関連を検討した。クラスターが 1 2 3 と進むにつれ ODI、JOABPEQ 歩行機能障害、SRS-22 Function と Self image が有意に悪化することが判明した。さらに 1、3 群では自己記入式の評価の重症度を反映しているが、2 群との差は少ない。2 群では SVA と PT が負の相関があり、矢状面アライメントが代償されている。そのために臨床的な差が出ていないことが推察された。有意でなかった項目について現在検出力の検討を行っているところであるが、検出力が不足していることが判明した場合は必要数の症例を追加したいと考えている (その方法についてはバイアスが生じないようにする必要あり)。本研究については論文投稿可能な段階に達しており、プロジェクトとしては終了との見解で一致した。

「術者によって頸椎症の手術成績 (JOACMEQ) に差があるか」(担当：細野委員) 頸髄症手術前後の JOA スコア、JOACMEQ、VAS を評価することが出来た 234 例を解析した。当初の予想どおり JOA スコアは評価者のバイアスが入るとの結果が得られ、抄録を JSSR2016 に提出したことが報告された。

本研究についても論文投稿可能な段階に達しており、プロジェクトとしては終了との見解で一致した。

2. JOABPEQ part 4, JOACMEQ part 5 の執筆状況について

20 点で「有意差あり」の根拠：OABPEQ は千葉大の大鳥先生に依頼する、JOACMEQ は当時の担当であった和田英路先生に確認が必要である。いずれにしても開発過程でのデータはあるので論文執筆を進めることで意見が一致

した。

3. JOABPEQ、JOACMEQ 偏差得点の開発の進捗状況

福井委員より報告

性別・年代別で100例ずつあるので、そのデータを使用する。

高齢者の下位尺度得点は個人間のばらつきがあるので、偏差得点を出すのが可能であるが、若い年代では殆どの方が100点満点なので、偏差の部分を計算が難しいと感じている。若い世代の精度は落ちることになるが、まずは今あるデータを用いて計算式を作ってみる。それを委員会で検討することとなった。

4. 日本整形外科学会へのプロモーション

川上委員長より、日本整形外科学会において診断評価の委員会の再開が必要であるとの認識が示され、出席者全員の同意を得た。また、プロジェクト研究への応募も必要である、新しいプロジェクトとして変性側彎や porosis など検討してみてもどうかとの案が提出された。

5. プロジェクト研究へのインセンティブ

引き続き紺野担当理事から JSSR 理事会への働きかけを行うことが確認された。

6. その他 次回開催日時など

JSSR2016 学術集会が現在の構成メンバーによる委員会の最終となる。次会委員会の開催日時は事務局より追ってメール連絡することとなった。